

伊豆沼・内沼 サンクチュアリセンターニュースvol.75



平成28年9月号

調査・研究

ガンやハクチョウが渡ってくるのはいつ？

秋の足音が聞こえ始めると、冬の主役であるガンやハクチョウの渡ってくる時期となります。その年に初めて観察された日を初認日と呼んでいます。1991年から2015年までの25年間でみると、マガンの平均初認日は9月21日です。ハクチョウ類では、コハクチョウが最初に渡ってくるが多く、平均初認日は10月10日です。そしてオオハクチョウはコハクチョウより1週間程度遅れて渡ってきます。北の高気圧が張り出し、気温がグッと下がったときに渡ってくる人が多いので、天気図をながめていると初認日を予想できるかもしれません。



昨年9月19日に初認されたマガンの
長旅で疲れたのでしょう。休んでいます。

調査・研究

ハスの被覆率を調べる

現在、伊豆沼では、ハスの繁茂による水中の酸欠が問題となっているため、酸欠の改善を目指してハスを刈り払う実験が行われています。この実験では、刈り払い後のハス群落の経過を観察するため、水面を覆うハスの葉の量を定期的に調べています。右の写真は、ハスの群落を真上から撮影したものです。さて、ハスの葉は画面の何%を覆っているように見えるでしょうか？。80%~90%くらいだろうと大まかに推測することはできても、ずばり正確な数値を言い当てることは目測ではまず不可能でしょう。そこで私たちは、画像解析技術によってハスの葉の割合を求めることにしました。デジタルカメラの写真は、多数の点(=画素)から構成されています。一つ一つの点についてハスの葉か水面か色によって分類し、ハスの葉に該当する点の個数を写真全体の点の個数で割ることで、ハスの葉が占める割合が出るという仕組みです。この写真の場合、ハスの葉の割合は81%でした。画像解析は、目測よりも手間はかかりますが、誰が何度測っても正確な数値が得られる点で優れた方法です。



水面を覆うハスの葉

普及・啓発

伊豆沼・内沼のお絵かき教室を開催しました

伊豆沼・内沼に生息する生きものをテーマにしたお絵かき教室を8月11日(木・山の日)に、栗原市サンクチュアリセンターつきだて館(昆虫館)で開催しました。参加した小学生18人は、イラストレーターの安斉俊先生にトンボの体の構造や描き方のコツを教えてもらい、絵を完成させました。生きたコフキトンボを様々な角度から観察した子どもたちは、足のトゲや口のキバのような細かい部分まで描写しました。トンボや他の生きものたちが伊豆沼・内沼のどのような環境で生活しているのか観察しに行きたくなったようでした。



描き方のコツを説明する安斉先生



上手に描けたよ！

普及・啓発

第4回自然体験講座を開催しました

8月6日に第4回自然体験講座が開催されました。今回は、昆虫採集と標本づくりという内容で、宮城県昆虫地理研究会に所属している、わくわくどきどき実験室の方々に講師をしていただきました。最初に捕虫網や三角紙(チョウやトンボを入れるために折った紙)の使い方をレクチャーした後、午前には近くの田んぼに移動して様々なチョウやトンボを採集しました。当日は良い天気の中、大型のアゲハチョウの仲間や素早いトンボを追いかけ、上手に三角紙に入れていました。午後は午前中に採集したチョウやトンボを標本にしました。講師の方々の指導のもと、展翅板や展翅テープなどの標本道具を使って採集したチョウやトンボの翅を固定して慎重に標本にしていました。



たくさん捕まえるぞ



真剣に標本作りに取り組んでいます



お屋のカレーライスいただきます

伊豆沼・内沼 生きもの図鑑

ホザキノフサモ *Myriophyllum spicatum* L.&

フサモ *Myriophyllum verticillatum* L.



写真1 ホザキノフサモ



写真2 フサモ

濁ってしまった沼の中、水の中でそっと生きている水草がホザキノフサモ(写真左)です。名前の通りフサフサした羽根のような葉をいっぱい持つ水草です。比較的水の汚れに強いホザキノフサモは、今の沼で見つけることのできる数少ない水草の1つとなっています。実は、昔の伊豆沼・内沼には、“ホザキノフサモ”ではなく、その仲間である“フサモ”がたくさん生えていました(写真右)。フサモは、ホザキノフサモと見た目はそっくりですが、水の汚れに弱い水草です。伊豆沼・内沼の水が汚れるにつれ、フサモは消え、ホザキノフサモと入れ替わったようです。

〈事務局〉

(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団

〒989-5504 宮城県栗原市若柳字上畑岡敷味17-2

ホームページ: <http://izunuma.org>

Tel:0228-33-2216 Fax:0228-33-2217

E-mail: izunuma@circus.ocn.ne.jp